# 共通クライアント 利用解説書

Ver 1.8

2018年10月31日

(一社)電子情報技術産業協会(JEITA) EC センター

# 変更履歴表

項番	版数	発行/改訂日	共通クライアント 対応 Ver	変更理由	変更箇所	備考
1	1.0	2008/2/20		新規作成		
2	1.1	2009/1/9		組織名の記述を、jeita.jp で はなく、jeita.or.jp に変更	章 5.1.2.1 送受信 API	
				送信済みファイル、受信ファ イルのファイル命名規則変 更	章 4.4.2 送信完了/送信失敗ファイルの 命名規則 章 4.4.3 受信ファイルの命名規則	
3	1.2	2009/8/28		インストール時の注意事項 を追記	章 3.2.1 インストール	
4	1.3	2010/02/23	Ver2.0 対応	対応 Java バージョン追記	章2動作環境	
				設定ファイル説明追記	章 3.2 共通クライアントのインストール	
				コマンドラインイメージ修正	章 4.2.1 バッチファイルによる実行	
				Java 実行環境インストール 説明を修正	章 3.1 Java 実行環境のインストール	
5	1.4	2011/12/7	Ver2.1 対応	設定ファイル説明追記	章 4.1.1 設定ファイルの記述内容	
				送受信処理の説明の見直し	章 4.4 送受信処理の記述内容	
6	1.5	2013/2/13	Ver2.2 対応	対応 Java バージョン追記	章2 動作環境	
				インストール時の注意事項 追記	章3.2.1 インストール	
7	1.6	2015/03/13	Ver2.2 対応	全体構成見直し		
				対応 Java バージョン追記	章2 動作環境	
				Java インストール記述見直し	章 3.1 Java 環境のインストール	
8	1.7	2017/09/26	Ver2.3 対応	インストール方式変更	章3.2.1 インストール	
				設定画面追加に伴う記述変 更	章 4.1.1. 設定ファイルの記述内容	
				送信ファイル制限、リトライ 設定追加	章 4.1.2 ebMSv3 通信環境設定ファイル	

				証明書インストール手順修 正	4.3.2 証明書のインストール	
				ログファイル説明追加	5.4 ログファイル	
				送受信結果一覧ファイル追 加に伴い記述変更	7 ログ/エラーメッセージー覧	
9	1.8	2018/10/31	Ver2.3 対応	OpenJDK サポート追記	2.動作環境	
				OpenJDK インストール手順 追記	3.1 Java 実行環境インストール	
				Java 証明書パス設定追記	4.1.2 ebMSV3 通信定義ファイル	
				Jeita 共通クライアントにお ける固定パラメータ追記	4.1.3 JEIA 共通クライアントにおける固 定パラメータ	
				コマンド仕様における候補 値修正	5.1.1.2. 送信コマンド仕様 5.1.1.3 受信コマンド仕様	
				受信コマンド利用時の説明 を追記	5.1.1.3 受信コマンド仕様	
				通信エラーについて証明書 エラーの追記	6. トラブルシューティング	
				複数接続先の設定方法の 追記	<ul> <li>4.1 設定ファイル(initfile.xml)</li> <li>5.1.1 パッチファイルによる実行</li> <li>5.5 複数接続先利用の場合の注意事</li> <li>項</li> </ul>	

# 目次

1	はじめに		1
<b>2</b>	動作環境		2
3	インストー	-,12	3
Ċ	B.1 Jav	a 実行環境のインストール	3
	3.1.1	Oracle Java インストール	3
	3.1.2	OpenJDK インストール	3
ŝ	8.2 共通	シライアントのインストール	4
	3.2.1	インストール	4
	3.2.2	ファイル/フォルダ構成	8
4	動作設定	·	10
4	1.1 設定	ジァイル(initfile.xml)	10
	4.1.1	設定ファイルの記述内容	10
	4.1.2	ebMSv3 通信機能定義ファイル(ebmsv3.properties)	13
	4.1.3	JEITA 共通クライアントにおける固定パラメータ	15
4	1.2 利用	可能ファイル名	15
	4.2.1	送信ファイル	15
	4.2.2	受信ファイル	16
4	I.3 ASI	?から証明書のインストールを依頼された場合	16
	4.3.1	証明書の取得	16
	4.3.2	証明書のインストール	16
<b>5</b>	起動方法	<u>.</u>	18
Ę	5.1 通信	実行	18
	5.1.1	バッチファイルによる実行	18
	5.1.2	Java API による実行	19
Ę	5.2 戻り	値とエラー処理方針	20
Ę	5.3 送受	·信処理	21
	5.3.1	送信処理の動作	21
	5.3.2	受信処理の動作	22
	5.3.3	制限事項	22
Ę	5.4 ログ	ファイル	23
	5.4.2	トレースログ	23
	5.4.3	エラーログ	23
	5.4.4	送受信結果一覧ログ	23
Ę	5.5 複数	な接続先と通信を行う場合	24
	5.5.1	設定	24
	5.5.2	送受信	24
6	トラブルシ	ノューティング	25

6.1	実行環境	25
6.2	送信/受信共通	25
6.3	送信処理	27
6.4	受信処理	27
7 ログ	・/エラーメッセージー覧	28
7.1	ERROR レベルのログに出力されるメッセージ	28
7.2	Info レベルのログに出力されるメッセージ	29
7.3	Debug レベルのログに出力されるメッセージ	30

# 1 はじめに

本書では、共通クライアントのインストール、設定、機能等について記述している。

# 2 動作環境

共通クライアントの動作環境について以下に示す。

項目	環境		
対応 OS / Java	Windows 7	Oracle Java8 update144,	
	Windows 8		
	Windows 8.1		
	Windows 10		
	Windows 7 (64bit のみ)	OpenJDK10.0.2	
	Windows 10 (64bit $OP$ )		
パーソナルコン 上記対応 OS が快適に動作するパーソ		ナルコンピュータ	
ピューター			
CPU	上記対応 OS 毎に推奨する CPU		
メモリ	上記対応 OS 毎に推奨するメモリ		
ディスク容量	20MB以上(通信するデータ容量によって異なります)		

表 2.1 動作環境

### 3 インストール

#### 3.1 Java 実行環境のインストール

Oracle Java、或いは OpenJDK のインストールが必要である。

#### 3.1.1 Oracle Java インストール

- インストールする OS にあわせて、インストーラを選択する。
   32bit 版 OS の場合: jre-8u144-windows-i586.exe
   64bit 版 OS の場合: jre-8u144-windows-x64.exe
- 2. インストーラをダブルクリックする。インストーラが起動する。
- 3. 「Java のセットアップ ようこそ」が表示されるので、「ライセンス契約」に同意 した上で「インストール」ボタンを押下する。
- 「Java セットアップ インストール先フォルダ」が表示されるので、変更する場合は、[変更]ボタンを押下しインストール先を変更した上で、「次」ボタンを押下する。
   変更しない場合は、「次」ボタンを押下する。
- 5. 「Java セットアップ 進捗」が表示され、インストールが開始されるので、処理が 完了するまで待つ。
- 6. 「Java セットアップ 完了」が表示される。「閉じる」ボタンを押下し、画面を閉 じ、インストールを完了する。

#### 3.1.2 OpenJDK インストール

 ダウンロードしたファイルをインストールするディレクトリに解凍する。 openjdk-10.0.2\_windows-x64\_bin.tar.gz 注:tar.gz形式のファイル解凍ツールが必要

#### -3-

#### 3.2 共通クライアントのインストール

# 3.2.1 インストール

1. ダウンロードした共通クライアントインストーラ (setup.exe) をダブルクリックす るとインストーラが起動する。

🙀 JEITA共通クライアント - Ins	tallShield Wizard 🔀
2	JEITA共通クライアント用のInstallShield ウィザードへようこそ
	InstallShield(R) ウィザードは、ご使用のコンピュータへ JEITA共 通クライアント をインストールします。「)太へ」をクリックして、続行し てください。
	警告:このプログラムは、著作権法および国際協定によって保護 されています。
	< 戻る(B) <b>次へ(N) &gt; キャンセル</b>

2. 利用規約を確認し、同意した後、 [次へ] ボタンを押下する。

滑 JEITA共通クライアント - InstallShield Wizard 🛛 🛛 🔀						
使用許諾契約 次の使用許諾契約書を注意深くお読みください。						
▲ JEITA共通クライアントソフトウェア利用規約						
1. 適用範囲 本利用規約は、本サイトにおいて公開される『JEITA共通クライアントソフトウェア』を 利用される方(以下「利用者」という)に適用されます。本利用規約は、 『JEITA共通クライアントソフトウェア』をダウンロードした時点から適用されます。						
2.目的 社団法人電子情報技術産業協会 ECセンター(以下「JEITA ECセンター」という)では、						
<ul> <li>○ 使用許諾契約の条項(に同意します(A)</li> <li>□ 印刷(P)</li> <li>○ 使用許諾契約の条項(に同意しません(D)</li> </ul>						
InstaliShield						
< 戻る(B) 次へ(M) > キャンセル						

3. インストール先フォルダーを決定する(初期値:c·¥jeita)。適宜変更して[次へ] ボタンを押下する。

<mark>禄 JETTA共</mark> インストール このフォル にインスト	通クライアント - InstallShield Wizard メ 、 先のフォルダー 、 ダーにインストールする場合は、「次へ」をクリックしてください。別のフォルダ 、 ールする場合は、「変更」をクリックします。
Þ	JEITA共通クライアントのインストール先: C:¥jeita¥ 変更(C)
InstallShield -	< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

4. 「インストール」ボタンを押下し、インストールを開始する。

🤯 JEITA共通クライアント - InstallShield Wizard
プログラムをインストールする準備ができました ウィザードは、インストールを開始する準備ができました。
「インストール」をクリックして、インストールを開始してください。
インストールの設定を参照したり変更する場合は、「戻る」をクリックしてください。「キャンセル」をク リックすると、ウィザードを終了します。
TostallShield
< 戻る(B) (アンストール(I) キャンセル

5. ソフトウェアが解凍され、指定したフォルダ (c:¥jeita) にインストールされる。処 理が完了するまで待つ。完了画面が表示されたら、"JEITA 共通クライアント設定 を自動開始します"チェックボックスを確認した後、"完了"ボタンを押下する。

🐻 JETTA共通クライアント - InstallShield Wizard 🛛 🛛 🔀				
<u>ح</u>	InstallShield ウィザードを完了しました			
	InstallShield ウィザードは、JEITA共通クライアントを正常にイン ストールしました。「完了」をクリックして、ウィザードを終了してくださ い。			
	₩ JEITA共通クライアント設定を自動開始します。			
	< 戻る(B) <b>完了(F)</b> キャンセル			

6. JETA 共通クライアント設定画面が表示されるので、設定項目を入力した後、"OK ボタン"を押下する。設定項目内容は表 3.1 を参照のこと。

接続設定	環境設定
カウント設定	ファイル・フォルダ設定
統先から連絡されている、「企業ID」、「パスワード」を入力してください。	送信
業ID *	フォルダ * C¥jeita¥ediclient¥data¥send 参照
20-6*	完了フォルダ * C¥jeita¥ediclient¥data¥send_complete 参照
	エラーフォルダ * C¥jeita¥ediclient¥data¥send_fail 参照
/信設定	
続先から連絡されているサーバURLを入力してください。	The second secon
RL *	
,	
ロキシ設定	※Uを指定した場合は、サーハから全てのファイルを支信します。
プロキシ経由で接続を行う	
ホスト *	ログフォルダ * C¥jeita¥ediclient¥log 参照
ポート*	
2-#	
	トレースログファイル *  trace.log
	ログレベル* 通常モード 💌
1111111111111111111111111111111111111	
トライ同数	javamの目的には、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、 javamの目的に、
	(自動で値が設定されている場合は、編集不要です。)
トライ間隔 1 秒 指定範囲(0~60)、デフォルト値:1	cacerts * C#Program Files¥Java¥jre180_31¥lib¥security¥cacerts 参照

以上でインストールは完了である。

設定	項目	必須	意味	設定説明・推奨値
アカウント	企業 ID	Ø	サーバにログインするア	ASP プロバイダから通知された値を設定する。
設定			カウント	
	パスワード	Ø	サーバにログインするパ	
			スワード(平文)	
	URL	Ø	サーバの ur l	ASP プロバイダから通知された url を設定する。
プロキシ設	ホストt		プロキシサーバホスト名	インターネット接続にプロキシサーバがある場
定	ポート		プロキシポート番号	合は、その情報を設定する。プロキシサーバを持
	ユーザ		プロキシユーザ	たない場合は設定しない。
	パスワード		プロキシパスワード	
通信リトラ	リトライ回数		通信をリトライする回数	通信エラー時のリトライ回数を設定する。
イ設定	リトライ間隔		通信をリトライする間隔	(初回の通信を含む)
ファイル・フ	送信フォルダ	Ø	送信フォルダパス	使用するフォルダを指定する。
ォルダ設定	送信完了フォル		送信完了フォルダパス	
	ダ			
	送信エラーフォ		送信失敗フォルダ	
	ルダ			
	受信フォルダ	Ø	受信フォルダパス	
	受信最大ファイ		受信最大メッセージ数	1 回の受信処理で受信されるメッセージの最大
	ル数			数。省略時は"1"となる。"0"を指定した場合
				は、すべて受信するまで受信処理を続ける。
ログ設定	ログフォルダ	Ø	ログファイルを格納する	ログを出力したい適切な場所を決定し、そのファ
			フォルダを指定する。	イルパスを指定する。
	エラーログファ	Ø	エラーログファイル名を	
	イル		指定する。	
	トレースログフ	Ø	トレースログファイル名	
	ァイル		を指定する。	
	ログレベル	Ø	通常モード、調査モード	通常運用時は、
			から選択する。	"通常モード"を設定することを推奨する。
Java 証明書	Cacerts	Ø	java証明書リストのファ	"Java インストールフォルダ"
リスト			イルパスを指定する。	¥lib¥security¥cacerts を指定する。
				自動で設定されている場合は編集不要。

表 3.1 設定項目一覧

#### 3.2.2 ファイル/フォルダ構成

解凍後のファイル/フォルダ構成は以下の通りである。

#### C:¥jeita¥ediclient



作成されるフォルダおよびファイルについて以下に説明する。

data フォルダ、sample フォルダは、送受信時に使用するフォルダおよび、設定ファイル (「4 動作設定 」参照)のサンプルである。

また、tmp フォルダは解凍直後は作成されない。実際の動作時に自動作成される。

	フォルダ名・ファイル名	説明
eita¥ed	liclient	EDIクライアントのインストールフォルダ。
bin		
	- de lieure hae	EDIクライアント実行ファイル。業務APはこのbatファイルをコマ
	edicilent.bat	ンド実行する。
	jeita_client_config.exe	設定画面ツール。
conf		定義ファイルを格納するフォルダ。
	ebmsv3.properties	ebMSv3通信機能定義ファイル
1	jeita-log4j.xml	log4jの制御用定義ファイル
	initfile.xml	設定画面を使用して作成した設定ファイル
data		
	receive	受信フォルダのサンプル
	send	送信フォルダのサンプル
	send_complete	送信完了フォルダのサンプル
	send_fail	送信失敗フォルダのサンプル
lib		ライブラリを格納するフォルダ。
	activation.jar	JavaBeans Activation Framework。
	axis.jar	Apache Axisライブラリ。
	axis-ant.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	axis-schema.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	commons-discovery-0.2.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	commons-lang-2.1.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	commons-logging-1.0.4.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	jaxrpc.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	jeita-ebmsv3.jar	ebMSv3通信モジュール。
	jeita-ediclient.jar	EDIクライアントモジュール。
	jeita-ediclient-adaptor-ebmxv3.jar	ediclient-ebmsv3アダプタモジュール。
	log4j-1.2.12.jar	Log4j。
	mail.jar	JavaMail。
	saaj.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	wsdl4j-1.5.1.jar	Apache Axisライブラリが使用するモジュール。
	xalan.jar	XPath/XSLTプロセッサ。
	xercesImpl.jar	XMLパーサ。
	xml-apis.jar	XMLパーサ。
liconoc		EDIクライアントが使用しているソフトウェアのライセンスファイ
license	; 	ルを格納するフォルダ。
	axis.LICENSE.txt	axisライセンスファイル。
	log4j.LICENSE.txt	log4jライセンスファイル。
	xalan.LICENSE.txt	xalanライセンスファイル。
	xercesImpl.LICENSE.txt	xercesライセンスファイル。
sample		
	initfile.xml	設定ファイルのサンプル
		EDIクライアント実行時の一時ファイルを出力するフォルダ。
tmp		※一時ファイルは、次回起動時に、1日経過したものは削除
		されますので、ユーザは特に意識する必要はありません。

表 3.2 ファイル/フォルダ構成

#### 4 動作設定

#### 4.1 設定ファイル (initfile.xml)

共通クライアントの動作に必要な共通的な情報(ID/パスワードなど)をあらかじめ記 述しておくためのファイルである。インストール時に起動される設定画面で生成される。直 接編集することも可能である。

設定ファイルを複数用意し、送受信コマンド実行時に指定することにより複数の接続先 との通信が可能である。ただし、送受信ディレクトリについて混在して使用しないように注 意が必要である。

#### 4.1.1 設定ファイルの記述内容

設定ファイルの形式、例は以下のとおりである。設定ファイルに記述する情報のうち、送 信/受信フォルダ・ボックス ID (「表 4.1 設定ファイルの記述内容」の必須欄が○の項 目)は実行時に与える引数によって上書きすることが可能である。

詳細は、「5.1 通信実行」を参照。

◎:設定ファイル中に必ず記述しなければならない項目。

○:起動引数、もしくは設定ファイル中に記述しなければならない項目。

●:オプション項目だが、動作環境によっては必ず設定しなければならない項目。

1階層タグ	2階層タグ	必須	意味	設定説明·推奨値	例
アカウント情	User	$\bigcirc$	サーバにログインする	ASP プロバイダーか	UserId
報			アカウント	ら通知された値を設	
account	password	0	サーバにログインする	定する。	UserPassword
			パスワード(平文)		
	url	$\bigcirc$	サーバの url	ASP プロバイダーか	https://www.jeita
				ら通知された url を設	.jp/JEITA/service
				定する。	s/EbMSv3Server
プロキシ情	proxy_host	•	プロキシサーバホスト	インターネット接続に	ProxyHost
報			名(省略時はプロキシ	プロキシサーバがあ	
(オプショ			は使わない)	る場合は,その情報	
ン)	proxy_port	•	プロキシポート番号(省	を設定する。プロキシ	8080
proxyinfo			略時は 8080)	サーバを持たない場	
	proxy_user	•	プロキシユーザ(省略	合は設定しなくてい	ProxyUser
			時は認証なし)	良い。(空タグ)	

	proxy_passw	•	プロキシパスワード(平		ProxyPassword
	ord		文)		
ファイル情	send_directo	0	送信フォルダパス	使用するフォルダを	C:¥jeita¥ediclien
報	ry			指定する。	t¥data¥send
fileinfo	sent_directo		送信完了フォルダパ		C:¥jeita¥ediclien
	ry		ス。省略時は、送信フ		t¥data¥send_co
			オルダの親フォルダ+		mplete
			"/sent"という名前のフ		
			オルダとなる。		
	senderr_dire		送信失敗フォルダ		C:¥jeita¥ediclien
	ctory		省略時は、送信フォル		t¥data¥send_fail
			ダの親フォルダ+		
			"/senderr"という名前		
			のフォルダとなる。		
	receive_direc	0			C:¥jeita¥ediclien
	tory				t¥data¥receive
	receive_max		受信最大メッセージ数	1回の受信処理で受	1
	_messages		省略時は"1"となる。	信されるメッセージの	
			"0"を指定した場合は、	最大数。	
			すべて受信するまで受		
			信処理を続ける。		
	sendboxid	$\bigcirc$	送信ボックス ID	送信処理時の対象ボ	Document
				ックス ID。引数によっ	
				て上書き可能。	
	receiveboxid	0	受信ボックスID	受信処理時の対象ボ	Document
				ックス ID。引数によっ	
				て上書き可能。	
ログ情報	error_log	$\bigcirc$	エラーログを保存する	ログを出力したい適	C:¥jeita¥error.lo
log			ファイルパス	切な場所を決定し、	g
	trace_log	$\bigcirc$	トレースログを保存す	そのファイルパスを指	C:¥jeita¥trace.lo
			るファイルパス	定する。	g

	level	トレースログに出力さ	通常運用時は、	Info(通常モード)
		れるレベル。	"Info"を設定すること	
		• Error	を推奨する。	
		・Info(デフォルト)		
		•Debug		
		(省略時は "Info")		
プロキシサ		プロキシサーバへの	CONNECT 電文送	CRLF
ーバへの		CONNECT 電文の改	信時の改行コードを	
CONNECT 電		行コード	指定する場合に指定	
文の改行コ		•CRLF	する。	
ード		۰LF		
proxyconne		(上記以外の値指定、		
ct_linesep		及び空タグの指定不		
arator		न])		
		(省略時は、Ver2.0 以		
		前と同じ動作※)		

表 4.1 設定ファイルの記述内容

※補足

https 通信で利用する CONNECT 電文の改行コードは、Ver2.0 以前、CR(¥r)+LF(¥n)、と LF(¥n)が混在していた。Ver2.1 で追加された"proxyconnect\_lineseparator"を追加することによ り改行コードを統一することができる。

(Ver2.0 以前の場合の例)

CONNECT xxx.jeita.or.jp:443 HTTP/1.0¥r¥n

User-Agent: AxisClient¥n

Proxy–Authorization: Basic YXNhsGjsYtpsj2Fos¥n

Content-Length: 0¥n

Pragma: no-cache¥r¥n

¥r¥n

"proxyconnect\_lineseparator"設定でCRLFを指定した場合

CONNECT xxx.jeita.or.jp:443 HTTP/1.0¥r¥n

User-Agent: AxisClient<u>¥r</u>¥n

Proxy–Authorization: Basic YXNhsGjsYtpsj2Fos $\underline{\mathbf{Yr}}$ ¥n

Content-Length: 0<u>¥r</u>¥n

Pragma: no-cache¥r¥n

¥r¥n

#### -12-

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<setting>
         <account>
                   <user>UserId</user>
                   <password>UserPassword</password>
                   <url>https://www.jeita.jp/JEITA/services/EbMSv3Server</url>
         </account>
         <proxyinfo>
                   <proxy_host>ProxyHost</proxy_host>
                   <proxy_port>8080</proxy_port>
                   <proxy_user>ProxyUser</proxy_user>
                   <proxy_password>ProxyPassword</proxy_password>
         </proxyinfo>
         <fileinfo>
                   <send_directory>C:¥jeita¥ediclient¥data¥send</send_directory>
                   <sent_directory>C:¥jeita¥ediclient¥data¥send_complete</sent_directory>
                   <senderr_directory>C:¥jeita¥ediclient¥data¥send_fail</senderr_directory>
                   <receive_directory>C:\u00e4jeita\u00e4ediclient\u00e4data\u00e4receive</receive_directory>
                   <receive_max_messages>1</receive_max_messages>
                   <sendboxid>Document</sendboxid>
                   <receiveboxid>Document</receiveboxid>
         </fileinfo>
         <log>
                   <error_log>C:¥jeita¥error.log</error_log>
                   <trace_log>C:¥jeita¥trace.log</trace_log>
                   <level>Info</level>
         </log>
         cproxyconnect_lineseparator>CRLF</proxyconnect_lineseparator>
</setting>
```

#### 図 4.1 設定ファイル例

### 4.1.2 ebMSv3 通信機能定義ファイル (ebmsv3.properties)

送受信機能で使用する設定値を定義するファイルである。このファイルは、インストール 時に設定画面で生成される。直接編集することも可能である。

形式はJavaのプロパティファイルとし、その内容は下記である。

+	意味	記述例
javax.net.ssl.trustStore	SSL認証で使用するCA証明書がインポートされた トラストストアファイルのパス 設定画面の"cacerts"で指定した値が設定される。	javax.net.ssl.trustStore = C:/Program Files/Java/j2re1.4.2_11/lib/securi ty/cacerts
javax.net.ssl.trustStoreP assword	上記トラストストアファイルのパスワード	javax.net.ssl.trustStorePassword = changeit
ebmsv3.cpadir	CPAファイルが格納されているフォルダを指定す る。(CPAファイルはjeita-ebmsv3.jarに格納されて いる	ebmsv3.cpadir = c:/jeita/ediclient/lib
ebmsv3.connection.time out	強制的に通信タイムアウトとする時間(秒) 指定されていない場合のデフォルトは600秒。ま た、600秒未満の値を指定しても600秒となる。	ebmsv3.connection.timeout=1000
retry.count	通信をリトライする回数(回数には最初の通信も含む) 例:3を設定した場合は、最初の通信+リトライ2回を行う。 1~10の整数が指定可能。 1~10以外の値を設定した場合、または、指定がない場合のデフォルトは3。	retry.count=3
retry.interval	通信をリトライする間隔(秒) 0~60の整数が指定可能。 0~60以外の値を設定した場合、または、指定が ない場合のデフォルトは1。	retry.interval=1
ediclient.size.max.send.fil e	送信ファイルの送信可能な最大サイズ(M) 指定されていない場合のデフォルトは100M	ediclient.size.max.send.file=100
ediclient.size.max.all.file	送信ファイルの添付ファイルも含めた全体の送信 可能な最大サイズ(M) 指定されていない場合のデフォルトは200M	ediclient.size.max.all.file=200

## 表 4.2 ebMSv3 通信機能定義ファイルの記述内容

```
## Copyright (C) 2006 Japan Electronics and Information Technology Industries Association, EC
Center All Rights Reserved
#
# JSSE TrustManager keystore
#
javax.net.ssl.trustStore=C:/Program Files/Java/j2re1.4.2_11/lib/security/cacerts
javax.net.ssl.trustStorePassword=changeit
#
# cpa dir path
#
ebmsv3.cpadir=c:/jeita/ediclient/lib
```

#### 4.1.3 JEITA 共通クライアントにおける固定パラメータ

ebMS 通信パラメータである ebMS Action の仕様は下記の通りである。一般の ebMS サーバとの通信において、ebMS サーバ側で調整を行うように依頼する必要がある。

JEITA 共通クライアント送信時:PutMessage ※JEITA 共通クライアント受信時はチェックしないため任意。GetMessage 推奨

#### 4.2 利用可能ファイル名

送受信ファイル名、及び添付ファイル名に利用できる文字は、英数字及び"."(ドット)であり、漢字は扱えない。 また、同一ディレクトリ内においてファイル名、および添付ファイル名については、同一名称のものは扱えない。

#### 4.2.1 送信ファイル

送信するファイルは、設定ファイルの send\_directory タグで指定されたディレクトリ(送 信フォルダ)に格納する。添付ファイルを送信する場合は、対応する送信ファイルの拡張子 を除いた同名のフォルダを作成し、その直下に格納する必要がある。

#### ① 送信フォルダの例(添付なしの場合)

C:¥SENDDATA¥ 00001.xml 0002.xml

② 送信フォルダの例(添付ありの場合)

```
C:¥SENDDATA¥
00001.xml
00001¥
Parts.gif
00002.xml
00002¥
Orderlist.pdf
```

#### 4.2.2 受信ファイル

受信したファイルは、設定ファイルの receive\_directory タグで指定されたディレクトリ (受信フォルダ)に格納される。添付ファイルを受信した場合は、対応する受信ファイルの 拡張子を除いた同名のフォルダが作成され、その直下に格納される。

#### ① 受信フォルダの例(添付なしの場合)

```
C:¥RECEIVEDATA¥
20081201102254235_receivefile.dat
```

② 受信フォルダの例(添付ありの場合)

```
C:¥RECEIVEDATA¥
20081201102254235_receivefile.dat
20081201102254235¥
Attach.pdf
Attach2.jpg
```

#### 4.3 ASP から証明書のインストールを依頼された場合

ASP が利用する SSL 証明書によっては、共通クライアントに予めインストールする必要 がある。以下、ASP から依頼された場合に作業を行う。

#### 4.3.1 証明書の取得

ASP から依頼されたインストール対象の証明書を取得する。証明書の種類により、ASP から取得(サーバ証明書)する場合と、認証局(CA)の Web サイト等から対象の証明書を取得(root 証明書、中間証明書)する場合がある。

#### 4.3.2 証明書のインストール

Java に同梱されている、keytool を利用してインストールを行う。keytool は、X.509 v1、

-16-

v2、v3 の証明書、および、PKCS#7 形式の証明書から構成されている PKCS#7 形式の証 明書チェーンをサポートしている。インストール作業は管理者権限で作業を行わなければ ならない。作業はコマンドプロンプトで実行する。

(Java インストールパス)¥bin¥keytool -import -keystore (java インストールパス)¥lib¥security¥cacerts -file (インストール対象証明書)

パスワードには、"changeit"を指定する。

インストール対象の情報が出力されるので、内容を確認した後、

"この証明書を信頼しますか? [いいえ]:

の質問に"はい"を入力するとインストールが完了する。

(実行コマンド例)

C:\Program Files\Java\jre1.8.0\_112\bin\keytool -import -keystore C:\Program

Files¥java¥jre1.8.0\_112¥lib¥security¥cacerts -file C:¥temp¥SSL.cer

注:インストール対象(-file)で指定するファイルはフルパスで指定すること。また、(ア クセスが拒否されました)となる場合は、書き込み権のあるフォルダに対象ファイルをコピ ーし、更新した後、元のファイルを上書きすると良い。

### 5 起動方法

#### 5.1 通信実行

共通クライアントの起動方法は、バッチファイルによる実行と API による実行の二通り がある。

#### 5.1.1 バッチファイルによる実行

バッチファイル (ediclient.bat) に引数を与えて実行することにより、共通クライアント を起動する。(通信が行われる) 起動引数で異なる設定ファイルを指定することにより複数 の接続先と通信することが可能である。

#### 5.1.1.1 コマンド概要

バッチファイルによる起動のコマンド形式は以下である。

バッチファイル名 パラメタ1 パラメタ2 パラメタ3…

コマンドは、バッチファイル名と複数のパラメタで構成される。バッチファイル名とパラメタ、パラ メタ同士はスペースで区切り、パラメタの順序は入れ替え可能とする。

また、パラメタは –パラメタ名="パラメタの値" という形式で設定する。パラメタの値はダブルク オーテーションで囲まなくても良いが、パラメタの値にスペースが含まれる場合は、ダブルクォー テーションで囲むことは必須とする。

Pull 型送受信コマンドの戻り値は、プロセスのリターンコードで返す。

#### 5.1.1.2 送信コマンド仕様

送信時は以下のコマンドを利用する。

ediclient -mode="send" -initfile="path" [-datadir="dir"] [-boxid="boxid"]

パラメタ名	必須	候補値	説明
-mode	$\bigcirc$	send	動作モード
-initfile	0		設定ファイルのパス
-datadir			送信ファイル・添付ファイルの存在する
			フォルダのパス
-boxid			ボックス ID
			接続先から通知される

#### 表 5.1 送信コマンドパラメタ

-datadir、-boxid は、設定ファイル内にも同様の項目が設定可能であり、引数か設定ファイル

内のどちらかで指定しなければならない。

設定ファイル内で指定する場合は、引数は省略可能である。また、引数で指定する場合は、 設定ファイル内の設定項目は省略可能とする。両方で指定している場合は、引数が優先される。 両方とも指定していない場合は、エラーとする。

戻り値については、「5.2 戻り値とエラー処理方針」を参照。

#### 5.1.1.3 受信コマンド仕様

受信時は以下のコマンドを利用する。

ediclient -mode="receive" -initfile="path" [-datadir="dir"] [-boxid="boxid"]

パラメタ名	必須	候補値	説明
-mode	0	receive	動作モード
-initfile	0		設定ファイルのパス
-datadir			受信ファイル・添付ファイルを保存する
			フォルダのパス
-boxid			ボックス ID
			接続先から通知される

#### 表 5.2 受信コマンドパラメタ

-datadir、-boxid は、設定ファイル内にも同様の項目が設定可能であり、引数か設定ファイル 内のどちらかで指定しなければならない。

設定ファイル内で指定する場合は、引数は省略可能である。また、引数で指定する場合は、 設定ファイル内の設定項目は省略可能とする。両方で指定している場合は、引数が優先される。 両方とも指定していない場合は、エラーとする。

戻り値については、「5.2 戻り値とエラー処理方針」を参照。

#### 5.1.2 Java API による実行

#### 5.1.2.1 送受信 API

jp.jeita.ediclient.core.EDIClient クラスに、送信/受信を行う API が実装されている。

 $\bigcirc$  PutDocument

クラス: jp.or.jeita.ediclient.core.EDIClient.

メソッド: int PutDocument(String initFilePath, String sendDirPath, String boxId)

#### $\bigcirc$ GetDocument

 $2 \overline{\mathcal{P}} \mathcal{R}$ : jp.or.jeita.ediclient.core.EDIClient.

 $\checkmark \lor \lor \lor$  : int GetDocument(String initFilePath, String sendDirPath, String boxId)

#### -19-

API 仕様に関しては、「共通クライアント利用解説書付録 1\_javadoc」を参照。

#### 5.1.2.2 同時多重処理時のログ出力について

API による実行でマルチスレッド処理を行う際は、各処理の設定ファイルで指定するロ グのレベル・出力先ファイルは統一しなければならない。

#### 5.2 戻り値とエラー処理方針

共通クライアントの戻り値とエラー処理方針は以下の通りである。

戻り値は、バッチファイル起動の場合はバッチコマンドの ERRORLEVEL として、API 起動の場合は、メソッドの戻り値(int)として返される。

豆し値	言治中日	発生可能性		エニー加田古針	
床り値	高元・ジュ	送信	受信	エノ、処理力如	
	正常				
0	正常に処理が終了。	0	0	・正常終了	
1	受信可能メッセージが存在しない。		0	・正常終了	
20番台	WARNING(正常)				
	ログ出力失敗。			工世级了	
20	通信は行われているため正常終了	0	0	「止吊於」 一酸生ナルキレテューゼにほかしてもしい	
	とする。			*音古を出力してユーザに通知してもよい	
	送信済みファイル移動不可。			工世级了	
21	メッセージの送信は行われているた	0		「止吊於」	
	め正常終了とする。	-		・警告を出力してユーサに通知してもよい	
	メッセージを受信したが、Reliability				
	Ackの送信に失敗した。				
	サーバ側でメッセージが受信済みに			<b></b>	
22	なっていないため、重複受信の可能		0		
	性がある。		Ŭ	・警告を出力してユーサに通知してもよい	
	メッヤージの受信は行われているた				
	め正堂終了とする。				
30番台	失敗(リトライ可能な異常)				
	サーバに接続不可。				
	クライアントに問題はなく、サーバ側		_	・時間を置いてリトライ	
30	の問題で接続できない可能性があ	0	0	・APで設定した回数リトライして接続でき	
	るため、リトライ可能とする。			なければエラーを出力してユーザに通知	
40番台	失敗(リトライ不可能な異常)				
40	引数の誤り。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
	環境の異常。				
41	JEITAクライアント内部定義ファイル	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
	の異常。		_		
42	設定ファイルの異常。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
43	送受信ファイル入出力時の異常。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
44	送信ファイルサイズオーバー。	0		・エラーを出力しユーザに通知	
	ebMSv3送受信機能内部で、通信実				
45	行前に発生したエラー。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
	詳細な原因はログを参照する。				
	ebMSv3送受信機能内部で、通信実				
46	行時に発生したエラー。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
	詳細な原因はログを参照する。	-	-		
47	サーバ接続時に認証に失敗した。	0	0	・エラーを出力しユーザに通知	
49	その他のエラー。	Ō	Ō	・エラーを出力しユーザに通知	

#### 表 5.3 共通クライアントの戻り値とエラー処理方針

#### 5.3 送受信処理

#### 5.3.1 送信処理の動作

(1) ファイル送信順序

送信フォルダに複数のファイルがある場合、ファイル名の昇順でソートした順番 で送信される。添付ファイルが複数ある場合も同様に、添付ファイル名の昇順でソー トした順番で送信される。

- (2) 送信が完了したファイル
  - ・送信が完了したファイルは、下記の規則に従いファイル名が変更され、送信完了フォルダに移動される。
    - ファイル名規則:

[日時(年月日時分秒ミリ秒)]\_[送信時ファイル名]

- 例) 20081201102254235\_sendfile.dat
- ・ 添付ファイルは、格納フォルダ名が以下の形式に変更され、送信完了フォルダに 移動される。(添付ファイル名は変更なし) フォルダ名規則:
   [日時(年月日時分秒ミリ秒)]
   例) 20081201102254235
- (3) 送信に失敗したファイル
  - ・送信に失敗したファイルは、下記の規則に従いファイル名が変更され、送信失敗フ オルダに移動される。
    - ファイル名規則:
      - [日時(年月日時分秒ミリ秒)]\_[送信時ファイル名]
      - 例) 20081201102254235\_sendfile.dat
  - ・ 添付ファイルは、格納フォルダ名が以下の形式に変更され、送信失敗フォルダに 移動される。(添付ファイル名は変更なし) フォルダ名規則:
     [日時(年月日時分秒ミリ秒)]
    - 例) 20081201102254235

#### 5.3.2 受信処理の動作

- (1) 受信ファイル
  - ・受信したファイルは、下記の規則に従いファイル名が変更され、受信フォルダに格 納される。
    - ファイル名規則:
      - [日時(年月日時分秒ミリ秒)]\_[受信ファイル名]
      - 例) 20081201102254235\_receivefile.dat
  - ・受信した添付ファイルは、受信したファイル名(日時\_受信ファイル名)の日時と 同一名のフォルダが作成され、その直下に格納される。
    - フォルダ名規則:
    - [日時(年月日時分秒ミリ秒)]
      - 例) 20081201102254235

#### 5.3.3 制限事項

(1) 送信ファイルサイズ

共通クライアントで送信できるファイルにはデフォルト設定では以下の制限がある。

- 1. 送信ファイルのサイズは 100M バイト未満。
- 2. 送受信ファイル+添付ファイルの合計容量は200Mバイト未満。

上記の制限を越えた場合は、戻り値:44で異常終了する。

ファイルサイズ制限は、ebMSv3 通信機能定義ファイル(ebmsv3.properties)で変 更することができる。

(2) ファイル数

送受信において、添付ファイル数が多いと、以下の問題が発生することがある。この ため、送受信時の添付ファイル数は100個を目安としていただきたい。

1)送受信時

ファイル数が多くなると、送受信の処理時間が長くなる。

2) 受信時

ファイル数が多すぎると、受信処理が戻り値46で異常終了する。

また、共通クライアントでは、ファイル容量管理は行っていない。このため、長期的 な運用においては、受信ディレクトリや送信完了ディレクトリなどに十分な空き領域 を用意しておくか、これらのファイルのバックアップ、または消去するなどの運用が 必要である。

#### 5.4 ログファイル

ログファイルには、トレースログ、エラーログ、送受信結果一覧ログがある。各ログは、 最大 1M で、10 世代でローテーション(※注)を行う。ローテーションしたファイル名は ファイル名の後ろに 1~10 の数字が付加される。

- 例: ログファイルが trace.log の場合
  - 1世代ローテーションした後の状態 trace.log, (ログ出力中のファイル) trace.log.1 (ローテーションしたファイル)
  - ② 3世代ローテーションした後の状態
    - trace.log, (ログ出力中のファイル)
    - trace.log.1 (ローテーションしたファイル)
    - trace.log.2 (ローテーションしたファイル)
    - trace.log.3 (ローテーションしたファイル、最も古いファイル)
- ※注 ログファイルのサイズが 1M を超えた時点で、別ファイルにローテーションする ため、ログファイルが 1M を超える場合がある。

#### 5.4.2 トレースログ

動作した履歴が全て出力される。出力する内容は、設定ファイルのログレベルに依存する。ログレベルには、"ERROR", "Info", "Debug"の3種類がある。詳細は、7ログ/エラーメッセージー覧を参照。

デフォルトファイル名: trace.log

#### 5.4.3 エラーログ

異常となった動作の履歴が出力される。詳細は、7 ログ/エラーメッセージ一覧を参照。 デフォルトファイル名: error.log

#### 5.4.4 送受信結果一覧ログ

通信毎に送信時刻、送受信結果、sid、ボックス ID、ファイルサイズ、エラーコードが出 力される。

デフォルトファイル名: send\_recv\_result.log

2017-07-18 13:50:28 [NG] SEND sid:170718145926825 No=0001 BoxID=ORDER FileName=order.txt Bytes=7125 Code=30 2017-07-18 14:59:28 [OK] SEND sid:170718145926825 No=0001 BoxID=ORDER FileName=order.txt Bytes=7125 Code=0

#### 図 5.1 送受信結果一覧ログ例

#### -23-

#### 5.5 複数接続先と通信を行う場合

複数接続先と通信を行う場合の設定、利用方法について記述する。

#### 5.5.1 設定

接続先 URL、ID が異なるため、接続先ごとに設定ファイル(initfile.xml)を用意する。 送受信を行うディレクトリ指定は、同時に起動することを踏まえて、接続先ごとに用意す ることが望ましい。

#### 5.5.2 送受信

送受信実行時に起動引数(-initfile)で接続先の設定を指定し実行する。複数起動することで、同時に異なる接続先への送受信は可能である。起動毎に Java VM が起動するため、メモリ等のリソースに注意すること。

# 6 トラブルシューティング

共通クライアントで発生するエラーについて、以下に示す。各項目は、表 6.1 表記方法 の形式で表す。

戻り値	現象
発生原因	
解決方法	

#### 表 6.1 表記方法

#### 6.1 実行環境

_	インストールできない。	
・共通クラ	イアントのインストール先と同名のフォルダが既に存在している。	
・共通クライアントのインストール先と同名のフォルダを削除する。		

9009	共通クライアントが起動しない。		
・Java がイ	ンストールされていない。 (バッチ起動のみ)		
・「3.1 Java 実行環境のインストール」を参照し、Java をインストールする。			

41、45	共通クライアントの内部定義ファイル異常。
・共通クラ	イアントのライブラリの異常。
・共通クラ	イアントライブラリ内に格納されている内部定義ファイルの異常。
・「3 イン	ストール」を参照し、共通クライアントの再インストールを行う。

# 6.2 送信/受信共通

20		ログが出力されない。
•	ログファ	ァイルが読み取り専用になっている。
•	ログをと	出力するフォルダのアクセス許可がない。
•	設定ファ	マイルのログ設定を確認する。
•	ログファ	マイルのプロパティで読み取り専用のチェックをはずす。
•	ログをと	出力するフォルダのプロパティのセキュリティタブで、アクセス許可のチェッ
	クを入れ	1アクセス拒否のチェックをはずす。

30	<b>0</b> 通信に失敗した。		
•	・ サーバに接続できない。		
•	LAN ケ	ーブル/電話線の接続を確認する。	
•	設定ファ	ァイルに記述した ASP の URL が正しいかを確認する。	
•	設定ファ	マイルに記述したプロキシ情報が正しいかを確認する。	

・ SSL サーバ証明書、あるいは SSL サーバ証明書の root 証明書がインストールされて いることを確認する。

引数が誤っている。 40

- ・ 動作モードが指定されていない/"send"、"receive"以外を指定している。(バッチ起 動のみ)
- ・ 設定ファイルが指定されていない/設定ファイルのパスが空文字か 201 字以上。
- ・送信/受信フォルダのパスが空文字か201字以上。
- ・ 未定義の引数が与えられた。 (バッチ起動のみ)
- ・ 「4 動作設定」を参照し、正しい引数で共通クライアントを起動する。

42	設定ファイルが異常。
<ul> <li>設定ファ</li> </ul>	ァイルが誤っている。
・ 「4.1 il	<b>段定ファイル」を参照し、設定ファイルを修正する。</b>

43	送受信ファイルの入出力エラー。
<ul> <li>指定され</li> </ul>	れた送信フォルダが存在しない。
<ul> <li>指定され</li> </ul>	れた受信フォルダが存在せず、作成することもできない。
<ul> <li>指定され</li> </ul>	1た送信/受信フォルダにアクセスできない。
<ul> <li>・ 受信し</li> </ul>	たファイル/添付ファイルを保存できない。

- ・ 引数/設定ファイルの送信フォルダを修正する。
- 送信フォルダを作成する。
- ・ 受信フォルダと同名のファイルが存在しているならば削除する。
- 送信フォルダ/受信フォルダのセキュリティ設定を書き込み可能にする。

46		ASP側でエラーが発生した。
•	ASP 側 <sup>、</sup>	でエラーが発生した。
•	ASP に	問い合わせて原因を確認する。
•	送受信に	ファイルの添付ファイル数が 101 個以上でないか確認する。

47		認証エラー	
•	ユーザ]	ID、もしくはパスワードが誤っている。	
•	設定ファ	ァイルのユーザ ID、パスワードが正しいかを確認する。	

### 6.3 送信処理

21		送信後、送信したファイルが送信完了フォルダ、もしくは送信失敗フォルタ	
		に移動されない。	
•	<ul> <li>・ 送信完了フォルダ/送信失敗フォルダにアクセス許可がない。</li> </ul>		
•	<ul> <li>送信ファイル/添付ファイルが読み取り専用になっている。</li> </ul>		
•	送信完了フォルダ/送信失敗フォルダのプロパティのセキュリティタブで、アクセス		
	許可のチェックを入れアクセス拒否のチェックをはずす。		
•	送信ファ	アイル/添付ファイルのプロパティで、読み取り専用のチェックをはずす。	

44		送信ファイルサイズオーバー
•	送信対象	象ファイルのサイズが 100M バイトを超えている。
•	送信対象	&ファイルと添付ファイルの合計サイズが 200M バイトを超えている。
•	複数回い	こ分割して送信する。

## 6.4 受信処理

22	受信確認通知の送信失敗
• 受信処理	里中に通信が切断された。
• 受信処理	里中に ASP 側でエラーが発生した。
・ LAN ケ	ーブル/電話線の接続を確認する。
・ ASP に	問い合わせて原因を確認する。

# 7 ログ/エラーメッセージー覧

エラーログ/トレースログに出力される主なメッセージの一覧を以下に示す。

# 7.1 ERROR レベルのログに出力されるメッセージ

メッセージ	説明
Communication error occurred.	通信異常が発生した場合に表示される。
ediclient.properties cannot be open	共通クライアントのコアライブラリ(jeita-
ed.	ediclient.jar)内に含まれる定義ファイルを開く
ediclient.properties does not exist.	ことができない。
It failed in certification.	WSS ユーザ認証に失敗した。
It failed in sending and receiving	通信機能の初期化に失敗した。
functional initialization process.	
It failed in the class load of Adap	共通クライアントの ebMSv3 通信アダプタライ
torController.	ブラリ (jeita-ediclient-adaptor-ebmsv3.jar) が
It failed in the class load of Trans	壊れている。
ferFactory.	
It failed in the notification of the	受信処理時、サーバへの受信完了通知の送信に
receiving completion.	失敗した。(戻り値22)
It is the unexpected return code.	通信機能で想定外のエラーが発生した。
The size of the sending file has e	送信ファイルのサイズが最大ファイルサイズを
xceeded Max byte.	こえている。
The folder to save the attachment	受信処理時、受信した添付ファイルを保存する
file cannot be created.	フォルダを作成できない。
The received attachment file cann	受信処理時、受信した添付ファイルを保存でき
ot be written in.	ない。
The receiving folder could not be	受信処理時、受信フォルダを作成できない。
created.	
The schemer file of the setting fil	共通クライアントのコアライブラリ(jeita-
e is not found.	ediclient.jar)内に含まれる設定ファイルのXML
	スキーマを開くことができない。
The sending file cannot be read.	送信処理時、送信対象のファイルを開くことが
	できない。
The sending file or/and attachmen	送信処理の成功時、送信したファイル/添付フ
t file cannot be moved to the send	ァイルを送信完了フォルダに移動することがで
ing completion folder.	きない。

The sending file or/and attachmen	送信処理の失敗時、送信を試みて失敗したファ
t file cannot be moved to the send	イル/添付ファイルを送信失敗フォルダに移動
ing failure folder.	することができない。
The sending folder cannot be acce	送信フォルダにアクセスすることができない。
ssed.	
The sending folder does not exist.	送信フォルダが存在しない。
Total size of the sending file and	送信ファイルと添付ファイルの合計サイズが最
Total size of the sending file and the attachment file has exceeded	送信ファイルと添付ファイルの合計サイズが最 大ファイルサイズをこえている。
Total size of the sending file and the attachment file has exceeded Max byte.	送信ファイルと添付ファイルの合計サイズが最 大ファイルサイズをこえている。

# 7.2 Info レベルのログに出力されるメッセージ

メッセージ	説明
Any sending file does not exist.	送信処理を開始したが、送信フォルダが空であ
	る。
Process ends. Return value: $\bigcirc$	共通クライアントの処理が終了した。戻り値は
	○である。
Receiving end was notified by tran	受信処理のための通信が終了した。通信機能か
smission function. : $\bigcirc$	らの戻り値は〇である。
Receiving process is indicated to tr	通信機能に対して、受信開始を指示した。
ansmission function.	
Receiving process starts.	受信処理を開始した。
Send end was notified by transmis	送信処理のための通信が終了した。通信機能か
sion function. : $\bigcirc$	らの戻り値は〇である。
Send process is indicated to trans	通信機能に対して、送信開始を指示した。
mission function.	
Sending process starts.	送信処理を開始した。
The attachment file is moved to t	送信した添付ファイルを送信完了フォルダ(〇)
he sending completion folder. Fold	へ移動した。
er name after the moving: $\bigcirc$	
The attachment file is moved to t	送信を試みて失敗した添付ファイルを送信失敗
he sending failure folder. Folder n	フォルダ(〇)へ移動した。
ame after the moving: $\bigcirc$	
The attachment file is read.	送信のため、添付ファイルを読み込んだ。
The attachment file is written.	受信した添付ファイルを保存した。

The receiving file is written.	受信したファイルを保存した。
The sending file is moved to the s	送信したファイルを送信完了フォルダ(〇)へ
ending completion folder. File nam	移動した。
e after the moving: $\bigcirc$	
The sending file is moved to the s	送信を試みて失敗したファイルを送信失敗フォ
ending failure folder. File name af	ルダ(〇)へ移動した。
ter the moving: $\bigcirc$	
The sending file is read.	送信のため、送信対象ファイルを読み込んだ。
The standby is done until receivin	受信のための通信が終了するまで待機する。
gends.	
The standby is done until sending	送信のための通信が終了するまで待機する。
ends.	

7.3 Debug レベルのログに出力されるメッセージ

メッセージ	説明
Argument analytical result. Operat	共通クライアントに与えられた引数。
ional mode: O Setting file: O Sen	
ding and receiving folder: $\bigcirc$ BoxI	
D: ()	
Attachment file name: O Attachm	送信する添付ファイルのファイル名とサイズ。
ent file size: $\bigcirc$	
Communication setting informatio	通信機能に渡す通信設定情報。
n. operational mode: $\bigcirc$ UserID: $\bigcirc$	
BoxID: O	
Communication setting superscripti	通信機能に渡す通信設定上書き情報。
on information. BoxID: $\bigcirc$ UserID:	
$\bigcirc$ Password: $\bigcirc$ EndPoint: $\bigcirc$	
Receiving file name: $\bigcirc$	受信したファイルに付与したファイル名。
Receiving process result return val	受信処理が終了した。その時の戻り値と通信機
ue: $\bigcirc$ Message: $\bigcirc$	能からのメッセージ。
Return code of reception process fr	受信のための通信が終了した。その時の通信機
om transmission function: $\bigcirc$	能からの戻り値。
Return code of sending process fro	送信のための通信が終了した。その時の通信機
m transmission function: $\bigcirc$	能からの戻り値。
Sending file name: O Sending file	送信対象のファイル名とサイズ。

size: O	
Sending process result return valu	送信処理が終了した。その時の戻り値と通信機
e: $\bigcirc$ Message: $\bigcirc$	能からのメッセージ。
Setting file analytical result. UserI	与えられた設定ファイルの解析結果。
$D: \bigcirc$ Password: $\bigcirc$ URL: $\bigcirc$ Proxy	
host: $\bigcirc$ Proxy port: $\bigcirc$ Proxy use	
rID: $\bigcirc$ Proxy password: $\bigcirc$ Sendin	
g folder: $\bigcirc$ Sending completion fol	
der: $\bigcirc$ Sending failure folder: $\bigcirc$	
Receiving folder: $\bigcirc$ The number o	
f receiving maximum messages: $\bigcirc$	
Re-receiving folder: $\bigcirc$ Sending B	
oxID: $\bigcirc$ Receiving BoxID: $\bigcirc$ Desi	
gnated receiving BoxID: $\bigcirc$ Error 1	
og file: $\bigcirc$ Trace log file: $\bigcirc$ Log le	
vel: $\bigcirc$ Query: $\bigcirc$	
The end of the receiving process	受信のための通信が終了したことを、通信機能
was notified. Transaction ID: $\bigcirc$	から通知された。〇は終了した通信のトランザ
	クション ID。
The end of the sending process w	送信のための通信が終了したことを、通信機能
as notified. Transaction ID: $\bigcirc$	から通知された。〇は終了した通信のトランザ
	クション ID。
The receiving file of the same dat	同日付で受信済みのファイル(〇)を確認。
e was checked. File name: $\bigcirc$	
The receiving folder is created. Fol	受信フォルダ(〇)を作成した。
der name: $\bigcirc$	
The receiving folder was decided. :	受信フォルダを〇に決定した。
0	
The sending folder was decided. :	送信フォルダを〇に決定した。
0	
The wait for receiving starts. Tran	受信のための通信が終了するまで待機する。〇
saction ID: $\bigcirc$	は終了待ちの通信のトランザクション ID。
The wait for sending starts. Trans	送信のための通信が終了するまで待機する。〇
action ID: $\bigcirc$	は終了待ちの通信のトランザクション ID。
Total capacity of sending file and	送信対象ファイルと添付ファイルのサイズの合
attachment file: $\bigcirc$	計が○である。